

デーリー東北
2025年(令和7年)11月7日(金曜日) (3)

新たにトラック運転手育成



八戸工大

「工業製品製造」は11人

八戸工業大(船崎健一学長)は6日、国内企業で就労できる外国人技術者を育成する「外国人特定技能エンジニアプログラム」の後期入校式を同大で行った。今期から開講する自動車運送業分野の2人を含むミャンマー人留学生13人が、国内企業で最長5年間働ける在留資格「特定技能1号」の取得を目指す。(向屋敷萌)

外国人特定技能プログラムの2人

プログラムは昨年度から開講。受講者は半年間の学習で、日本で活躍するエンジニアとして必要な知識や技術を身に付ける。自動車運送業分野は、業界の深刻な人手不足を鑑み今期から開講。トラック運転手に必要な日本語能力試験のN4以上に合格した人材を受け入れ、外免切り替え手続きに向けた講義などを行う。八戸市の三八五流通が教育をサポートする。

このほか工業製品製造業分野は11人が受講する。

式では、船崎学長が「八戸市
船崎健一学長(前列中央)と特定技能1号の取得を目指すミャンマー人留学生11名、八戸市

戸での学びや生活を通じて日本への理解を深め、将来は日本とミャンマーの架け橋となることを期待している」と激励した。自動車運送業分野を受講するニインチャンアウンさん(29)は「母国にも日本にもトラック運転手は必要だが、なり手が減っている。両国のために尽力したい。日本のライセンスは難しいが、一人前のドライバーになりたい」と意気込んだ。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。